

千葉県社保協通信

2018年度 — No11 2018年 11月27日号

〒260-0854 千葉市中央区長洲 1-10-8 自治体福祉セカビル 3F

TEL : 043-225-6790 FAX : 043-221-0138 Eメール syaho2006@star.ocn.ne.jp



くらしは苦しくなるばかり。10%なんてとんでもない

医療も 介護も 年金も 悪くなるばかり 消費税10%なんてとんでもない !! なんでも勝手に決めるアベ政治に怒り心頭

県社保協と消費税廃止県連絡会は11月22日昼、JR千葉駅頭で定例宣伝。8団体11人参加。肌寒いなか、途中から雨も降り出す悪条件でしたが、「なんでも勝手に決めるアベ政治。特に税金の集め方と使い方がひどすぎる」などと怒りの声とともに署名が寄せられました。

宣伝を始めるとすぐに「消費税10%中止」署名に応じた女性は「暮らしは苦しくなるばかり。アベはなんですか？これで消費税上げるなんてとんでもない」と署名。「母親の介護もあるから良くしないとね」と社会保障充実署名にも応じました。バスから降りて署名に駆け寄った女性は「アベは国民の声を聞いていない」と怒り心頭。高齢の男性は、「署名しないとね、消費税上がるのも困る、年金給付も下げ続ける、許せないよ」と。訴えをじっと聞いていた女性は「姉は75歳の後期高齢者、介護も保険料負担が心配だし、医療窓口2割負担にする？ひどすぎるでしょ」「財源がないなんて言っていないで、日産のゴーンは役員報酬もらいすぎ、お金のあるところから税金払ってもらえばいいのでは」と。住所は個人情報だから書かないと言う人に「住所がないと署名がカウントされない」と話すと「それは困る、声届けて」と記入してくれました。

ハガキ署名入りのポケットティッシュを200ヶ配布。署名は12筆。若い人の反応が薄かったので、次回は「消費税10%へ引き上げ、どう思う？」シール投票パネルなど用意しようと相談しています。

共同の力で 病院つぶし撤回させ、 安心して住み続けられる地域づくりを!

— 第9回 地域医療を守る運動全国交流集会 —

住民のねがいにもとづく地域医療の充実を求める全国の運動交流集会が、11月23日、東京都内で開かれました。医労連、自治労連、中央社保協などで作る実行委員会が主催し、今回で9回目。

基調報告は、横山壽一仏教大教授。国のめざす病床削減、医療費抑制の問題点を指摘。「安心して住み続けられる地域づくりの課題としてとらえて運動をすすめることが重要」と話しました。

長友薫輝三重短期大教授がコーディネーターを務めたシンポジウムでは、地域医療と公立病院を守る千葉県民連絡会の長平弘さんが報告。全国最低水準



4人のシンポジストのひとりとして、報告する長平弘さん

の千葉県の医療・介護提供体制の現状と国の「病院から在宅へ」「介護施設から在宅へ」の流れをそのまま持ち込む森田県政のもとでの県医療構想の問題点を指摘。県立病院の地域医療からの撤退をすすめる県政のもとで、県立佐原病院と県循環器病センター(市原市の南総地区)、二つの県立病院の統廃合にストップをかけた地域住民の運動について報告しました。

県内からは、自治労連、保険医協会、地域社保協などから7人程が参加しました。